

JAきたみらい

おひさま サタダ

2016



vol.167

12



はいっ ポーズ!

《端野地区・三区》

あやか ひろや
檜尾彩香さんと紘弥くん

(紹介は2ページです)

特集

平成28年産
農畜産物を振り返って



旬の野菜 大好評!

季節の薫り



今年は一足早い降雪となった11月中旬、「長いもまつり&収穫祭」を行った。各地域で収穫された野菜が一堂に並ぶ。

会場をマルキタ地方卸売市場に移して4回目の開催。例年、早朝から市民の行列ができ、約2千人が来場するほど大好評。特売価格の長いものほか、玉葱、馬鈴しょ、もち米、高級菜豆などの特産農産物や、JAのオリジナル商品、調理食品も人気を集まる。

さらに(株)マルキタの協力により、マグロの解体実演販売や海産物、畜産加工品が販売され、会場は入場制限を設けるほど賑わいを見せた。

(高田 陽介)

写真は11月13日にマルキタ地方市場内で撮影。当JA大坪専務は「野菜が高騰するなか、市民の皆さんには、きたみらいのおいしい野菜をたくさん食べて欲しい。地域に還元しながら、今後も同まつりを盛り上げていきたい」とご来場のお客様に挨拶しました。

もくじ CONTENTS

特集	平成28年度 農畜産物を振り返って.....4
○季節の薫り.....2	
○表紙紹介.....2	「元気に健康で自分らしく」
○地域だより.....12	
○ほのぼの広場.....14	・きたみらいのホープさん ・記念の一枚 ・プリーティーウーマン ・なかよし夫婦
○JAからのお知らせ.....16	
○おひさまサラダクッキング.....26	「カボチャとニンジンの甘いスープ」 「リンゴ&サーモンのサンドイッチ」

表紙紹介

元気に健康で自分らしく

すっかりと青空の広がる12月3日、檜尾家を訪ねるとお母さんと一緒に絃弥くんが迎えてくれました。

11月28日に1歳の誕生日を迎えた絃弥くん。伝い歩きや掘りまわり立ち早くにできるようになり、家のなかを元気に歩き回ります。取材中も押し車で遊ぶ活発さを見せてくれました。

大人のすることに興味を持ち、「あ」と声を出しながら指さしをします。家に飾られている写真を見るのが好きで、見ているものが好きで、テレビのリモコンを触ろうとする一面もあります。

最近絵本を読んでお母さんにせがみます。「いないいないばあ」がお気に入り、NHK番組「いないいないばあ」もよく見ます。

少しずつ食べるようになった絃弥くんの好きな食べ物はバナナで、嫌いなものはないらしく、なんでも食べられます。日に日に成長を見せる絃弥くんにお父さんとお母さんは「元気に健康で自分らしく育って欲しい」と話してくれました。

(高田 陽介)



【ご家族紹介】
前列左から～ひいおばあちゃんの時子さん(77)、ひいおじいちゃんのお香さん(80)、お母さんの彩香さん(22)、絃弥くん(1)
後列左から～おじいちゃんのお英司さん(55)、おばあちゃんのお真寿実さん(53)、お父さんの崇輝さん(24)

作付内容：水稲、小麦、玉葱など約20畝

平成28年産

農畜産物を振り返って

水 稲 作況指数 108の豊作

播種作業は4月下旬より開始し、前半は低温傾向だったものの5月19日から21日まで真夏日を記録するほど暑く移植後半の苗は徒長気味となりました。苗立枯病の発生は少なく、

年並みに充実した苗質となりました。移植作業は平年より3日早く終了しましたが、6月に入り低温・寡照・強風の影響により植え傷みがみられました。特に6月の寡照・低温から分けつの発生は緩慢となり茎数は昨年より半減しましたが、幼穂形成期は7月2日と概ね平年並みに経過し、

平成28年も残り20日余りとなりました。春の植付けは順調に進んだものの収穫時期に大雨が続き、不順な天候に見舞われた一年であったことと思います。一年を振り返り、主要農畜産物について各生産組織の代表者より総括していただきました。

前歴期間・冷害危険期間に低温はあったものの、多照で花粉の充実度は良好でした。

7月後半の低温により一部で出穂・開花はばらつき、それからの好天により稈長・穂長は平年並みに確保され、穂数はやや少ないものの1穂粒数はやや多く、稔実歩合が平年並みに高いことから正品収量は7年連続の高収量が期待できる状況となりました。

また、いもち病は8月22日初発確認されましたが、発生予測に基づく適切な防除により、ほぼ抑えることができました。

収穫作業は昨年産で大きな問題となった胴割粒への対策として適期収穫に努め、9月24日から各地区が一斉に始まり、途中降雨により中断するケースはありましたが10月13日で

終了し昨年と同様の操業日数となりました。平成28年産の水稲は、管内作況指数108（前年111）の豊作となり、10㍗当たり558kg（昨年618kg）を確保できました。品質面では、適期収穫のなかで網下歩留まりが高まったものの、胴割粒の発生はほぼ見られず例年より高い正品歩留まりで全量1等となりました。

きたゆきもち	10㍗当収量	等級	正品歩留	色下歩留	網下歩留
平成28年産	558kg	1等	85.7%	7.4%	6.9%
平成27年産	618kg	1等	84.5%	11.5%	4.0%
平成26年産	612kg	1等	83.7%	11.0%	5.3%



全量1等米 7年連続の豊作

きたみらいもち米振興会 会長 沼崎 栄治



本年を振り返り、春の育苗期から耕起・移植作業等は天候に恵まれ順調に進みましたが、6月の低温や風による植え傷みにより生育が遅れ気味になりました。その後7月から8月上旬の開花期まで高温で経過し、生育良好で平年並みまで回復しました。

8月17日からの低気圧や相次ぐ4つの台風に見舞われ一部河川の氾濫により水田の冠水・流亡など甚大な被害に見舞われました。被害にあわれた会員の皆様にお見舞い申し上げます。

このような気象変動のなか、昨年よりも1日早い9月24日から各地区一斉に刈り取りを開始し、10月13日に農作業事故等もなく無事終了しました。その結果、きたみらいもち米慣行・特裁含め平均反収は558kg(9.3俵)、正品反収478kg(8俵)、正品歩留 85.7%全量1等米となり7年連続の豊作となりました。

会員皆様には需給確保に向け、日々の農作業管理にご努力いただき感謝申し上げます。

また、今後国は平成30年度目途に生産数量目標の配分廃止・見直しを予定しており不透明な状況になっています。これまで長年にわたり契約栽培の取り組みを実施してきた北海道は、引き続き早期の需給確保や安定供給を目指し生産体系を維持していくと思います。北海道産のもち米を実需者と共に更なる消費拡大に向け、会員皆様が安心してきたみらいもち米生産を作付ができるように、役員、関係機関と取り組んでまいります。

麦 類 歩留まり高く 全量1等Aランク

◆秋まき小麦

播種作業、出芽共に平年並であったことから、越冬前茎数も平年並で推移しました。また、融雪期が平年よりも1週間程度早かったことからそれに準じて起生期も早まりました。しかし4月中下旬は低温傾向であったことから、幼穂形成期は4日程度早まる進捗となりました。5月は高温で経過したことから止葉期も早まりましたが、その後の低温により出

穂期は平年より3日程度早い進捗となり、結果として成熟期は平年並となりました。登熟期間は50日間(平年47日間)とやや長くなりました。また、病害では「コムギなまぐさ黒穂病」が各地区で発生しました。きたみらい管内における罹患面積は287畝、一部を含めた廃耕面積は219畝となり昨年から被害が拡大し、深刻な状況となっております。収穫は前年より4日遅い7月31日から始まり、8月10日で終了しました。

本年度の収量は、規格外込みで10㍗当たり平均669kg(前年668kg)、製品歩留まりは1等比率で91.0%(前年91.0%)となり、前年と同等の結果となりました。品質面では、登熟ムラによる青未熟粒割合の高い原料も見られましたが、すべてにおいて容積重・タンパク・灰分・FN(フォーリングナンバー)の基準値以内となり全量1等Aランクとなりました。しかし、荷口ごとの自主検定段階では高タンパクの原料が散見された結果、製品としても平均タンパク値12.1%と検査許容値限界の年産となりました。

◆春まき小麦

播種作業、出芽共に平年並で推移し、出芽後も気温が高かったことか

ら分けつが旺盛となり、幼穂形成期は平年よりやや早まりました。その後は低温となりましたが、止葉期、出穂期は平年並くやや早く推移しましたが、登熟期間は44日間(平年43日間)となり、成熟期は平年並となりました。

また、目立つ病害虫の発生は少なかったものの、成熟前の早い段階から倒伏する圃場が散見されました。収穫は前年より2日遅い8月10日から始まり、8月14日で終了しました。

本年度の収量は、規格外込みで10㍗当たり472kg(前年459kg)、製品歩留まりは84.5%(前年76.1%)と共に前年を大きく上回りました。

品質では早期倒伏圃場の細麦が目立つ年産となりましたが、すべてにおいて容積重・タンパク・灰分・FN(フォーリングナンバー)の基準値以内となり全量1等Aランクとなりました。また、毎年の懸念事項でありますタンパク値につきましては平均で11.7%(前年12.9%)と大幅に下がる結果となりました。

安心した麦類 耕作へ取り組む

きたみらい麦作振興会 会長 西野 繁



28年産を振り返ると、秋小麦に関しては播種時期の天候不順による遅れと、播種後の降雨による生育不良のなかでの越冬となりました。しかし、春先の融雪が早く、その後の生育も順調に推移し安堵していましたが、7月上旬に「コムギなまぐさ黒穂病」の罹患圃場が確認されました。各地区役員・JA職員・関係機関に協力を頂き、全地区において全筆検査を行った結果、287畝の罹患圃場が確認され、残念なことに219畝の圃場が廃耕を余儀なくされました。

この様ななかで収穫作業は7月31日から始まり、天候も味方して順調に進めることができ、昨年並みの収穫量を確保することができました。

春小麦は融雪が早かったため、播種作業は例年より早く進み、その後の天候にも恵まれたことから順調に推移しました。しかし、収穫時期が近づくにつれ、倒伏圃場が多く見受けられ、品質低下が懸念されましたが、台風の前に無事収穫することができ、収量・品質ともに前年を上回る結果となりました。

大麦に関しましては例年以上の収量があり、品質も良い状態で収穫できたことは、関係各位の努力の賜物と感謝申し上げます。

また、「コムギなまぐさ黒穂病」につきましても、関係機関と連携を図りながら、発病に至る経緯と対策を出来るだけ早く究明し、安心した麦類耕作が出来るよう取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



特集 平成28年度 農畜産物を振り返って



第4の畑作物として定着へ

きたみらい豆類振興会

会長 丸本 仁

今年の度重なる台風の被害にあわれた方々に対してこの場をかりてお見舞い申し上げます。

近年異常気象と言われていますが、本年も天候に悩まされた年ではなかったかと思われます。

豆類の播種時期は高温傾向でありましたが、おおむね順調に進みました。出芽以降は低温・降雨が続き、生育は緩慢となり、開花期は平年並みとなりました。

8月中旬以降は台風の影響により、一部では収穫不能な圃場も散見される状況となり、その後は倒伏・水没などで各豆類とも成熟期に大きな影響を与えました。収穫期も全体的に遅れ11月に入り降雪があったことから一部の圃場では収穫が大幅に遅れる事態となり、品質の劣化につながりました。

豆類全般としては平年に及ばない収量となり、振興会としても女竹に対しての助成が無くなったことから、高級菜豆に対しどのようにして振興をはかっていくのか、また大豆・小豆に対する安定作付けに向けた取り組みの在り方など課題は多いですが、今後に向けても第4の畑作物として定着できるよう、進めてまいりますので皆様のご協力をお願い致します。

豆類の播種期は平年よりやや早く、出芽期も大豆、小豆で早まりましたが、6月上旬が低温であったことからいんげん豆類では平年並みとなりました。

出芽後も低温寡照と併せて多雨傾向で進んだことから開花期は平年並みで推移し、高級菜豆の手立て作業も平年並みで進みました。

8月中旬以降は台風や長雨の影響で畑の停滞水により湿害となりました。特に小豆、高級菜豆全般で生育

豆類 生育障害で 収穫量減少

障害が発生したこと、着莢数及び1英粒数は少なく収穫量は大幅に減少しました。災害等により作業全般が多少遅れているなかで、11月上旬の降雪により一部の圃場が雪の下になったことから、特に大豆・小豆の収穫が更に遅れる事態となりました。

品質については、豆類全般として生育障害を受けたことから、小豆は子実の充実が進まず小粒傾向となり刈遅れ傾向により濃色粒の混入が目立つ年産となりました。

大豆は病害虫による被害粒が少なく、概ね好条件で収穫できました。汚粒も散見される年産となりました

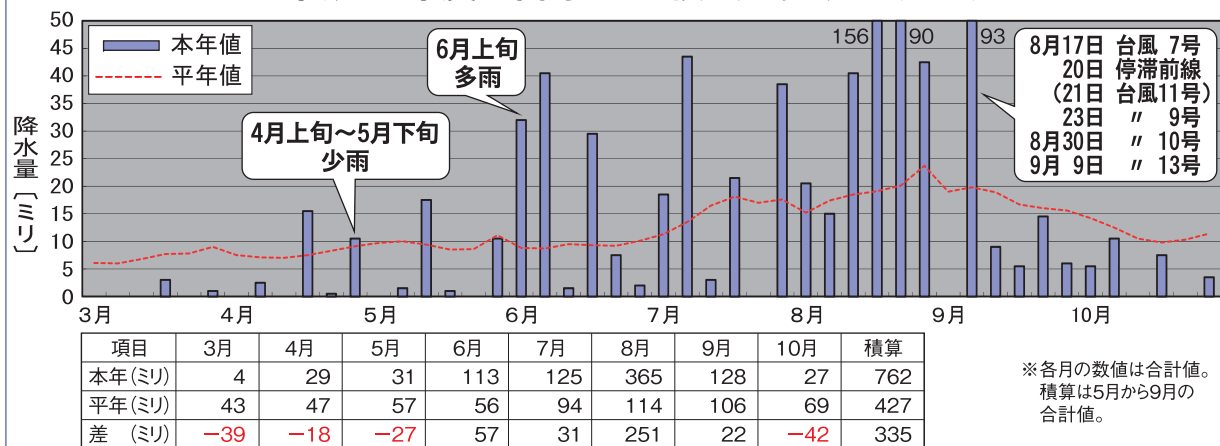


が、粒揃いは良好で品質は比較的良好な年産となりました。

高級菜豆につきましては、生育障害により早期に莖葉が枯れ上がっているなかで、子実の充実が進まなかったことから全般的に小粒となっており、粒張りが乏しい年産となっております。

収量につきましては、圃場間格差があるものの大豆3・9俵、小豆3・9俵、虎豆3・7俵、大福3・0俵、白花豆3・5俵・紫花豆で2・5俵とすべてにおいて平年を大きく下回る見込みとなっております。

平成28年度 降水量比較（北見アメダス）



てん菜 腐敗根多く 輸送は遅延

4月の移植・播種作業は概ね平年並みに始まりましたが、作業中盤となる4月30日には降雪があり、土壌のクラスト化による発芽不良・生育不揃いが心配されました。その後、5月上旬の強風と6月の冷涼な天候で初期生育の確保は難しかったものの、7月からは適度な降雨もあり、8月からの好天により昨年に続く豊作年を期待できる様子でした。しか



防除の見直しや 気象に負けない取り組みへ

きたみらいてん菜振興会

会長 原 智徳

播種定植時期から低温や大雪・風害等、春から難儀なことは有りながらも7月までには平年並に推移していた生育でしたが、やはりお盆以降の大雨が致命傷になり42トン/畓と過去最低の収量になりそうと非常に残念な年になりました。流亡等で喪失や損失が発生し、根腐黒根褐斑等も蔓延したりと大多数の方が生育や作業も然り、精神的にも経済的にも、大なり小なりダメージを受け御苦労されたと思います。

8月時点の予想収量は52トン/畓でしたが9月には47トン/畓に下方修正したものの腐敗の程度は見当がつかないまま収穫時期を迎えました。結果としては過去に経験無い規模の腐敗根があり全廃耕・部分廃耕を余儀なくされ、更には堀取りしても腐敗根が多く別対応となる等、例年には無い事例も発生しています。糖業においても査定が互いに不利益にならないよう、都度計量しながら腐敗根に応じて貯蔵堆積するか直ビン対応したり等、輸送や裁断ロスも発生していることは、これもまた例年に無い苦労をされています。我々から糖業から砂糖に関わるすべての人が、あの雨にやられた感はありませんが今年に限っては誰も悪く無い仕方無いと振り返るところです。

しかしながら、防除の見直しや気象条件に負けない取り組み等、やれることはまだ有るはず。本年を一つの事例として農協・糖業と連携するとともに、見通しの悪くなったTPPや制度見直し等の政策にも注視しつつ、シスト線虫対策やなまぐさ黒穂病の土壌に起因する諸問題にも関係機関並びに生産組織と連携して継続して取り組んでいきたいと考えておりますので、御協力よろしくお願い致します。

し、8月盆過ぎからの度重なる台風と長引く降雨の影響により冠水・浸水など大きな被害を受け、それまでの圃場と様子は一変し、根腐病・褐斑病が急速に蔓延する結果となりました。

生産実績見込みでは、概ね収穫量で42トン/畓、糖分で16・3%と、過去にない低収量と低糖分が想定されます。合理的な輸作体系の確立、畑地のフル活用等の観点からてん菜の重要性について理解が広まり、減少傾向だった作付面積は増反に転じ、昨々までの豊作基調も追い風となり、

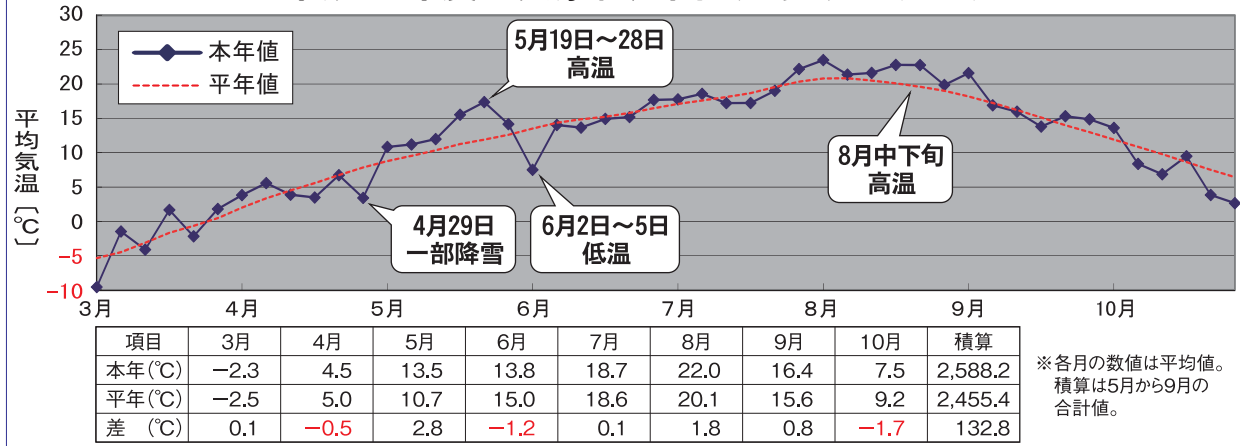


てん菜生産の優位性を実感されているなか、本年の作柄は健全に見える圃場でも腐敗根が多くあり、更には11月上旬の降雪後に収穫となった圃場では莖葉処理に難儀するなど、てん菜耕作の場面において過去にない困難な年となりました。

その結果、原料輸送は予想を下回る生産量に修正となり、受入現場では原料仕分けに要する受入効率の低下があり輸送期間は遅延しました。

	作付面積	畓収量	糖分	畓産糖量
平成28年度見込	3,942.80畓	41.86トン	16.3%	6.689トン
平成27年度見込	3,844.72畓	60.24トン	17.5%	10.538トン

平成28年度 気象経過図（北見アメダス）



特集 平成28年度
農畜産物を振り返って



**「求められる産地」
として今一度検証**

きたみらい馬鈴薯振興会
会長 佐藤 茂樹

本年の播種作業は4月中旬より開始となりました。4月の下旬には30cmを超える降雪などありましたが、前進栽培・一般栽培ともに5月中・下旬には完了となりました。植付以降は降雪の影響も心配されていましたが、6月～7月は天気にも比較的恵まれ、例年以上の生育で出来秋が期待されました。

8月に入り、ゲリラ豪雨や度重なる台風により多数の方々被害に見舞われました。前進栽培や今年から新たに取り組んだ一般早出しの収穫が、降雨により思うように進められなかったのが残念に思います。

9月は一般品の収穫となり、降雨により心配していた塊茎腐敗は平年よりは多いものの、生産者の方々のご努力もあり平年以上の収量を確保することが出来ました。

府県産の不作と全道主産地の台風の影響による収量の低下などから、販売環境は現況堅調に推移しているところで、貯蔵産地として春まで厳選し、消費地への良質馬鈴しょの供給をJAと連携し進めていきたいと思えます。

一方、シロシストの関連では、検査が進むにつれて被害の範囲なども特定されてきたところではありますが、当振興会としてはこれまで取り組んでいる土壌検診・植物検診などの対策を継続実施し、関係機関と連携を取りながら蔓延防止に努めてまいります。

これからも「求められる産地」「生産者の作付意欲の向上」を今一度検証しながら、今後に向かっていきたいと思えます。会員皆様のご理解ご協力をお願いするとともに、次年度も実り多い年になることをご祈念いたします。

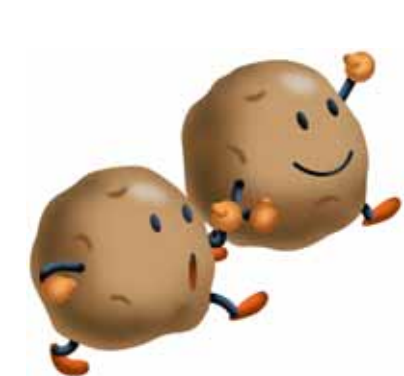
**馬鈴しょ
全道的に
不作基調**

植付作業は平年並みに順調にスタートしたものの、4月末の降雪、降雨により一時中断しましたが、総じて3日早く並みで作業は終了となりました。植付後の生育は干ばつ傾向に推移し例年より早い萌芽により初期生育は確保されましたが、6月に入りこれまでの高温・干ばつ傾向が一転し、低温・日照不足・降雨の気象推移となり、培土作業の遅れなど生育は停滞しました。6月後半以降は気温・降水量とも平年並みに推移

し生育は回復、圃場間格差はあるものの総じて順調に推移しました。

馬鈴しょの収穫は、前進栽培で平年並みに開始し断続的な降雨はあったものの、順調に収穫が進みましたが、8月中旬以降の度重なる台風の影響により、一部圃場において甚大な被害を受けた圃場や滞水など圃場条件が悪いため、収穫作業は大きく遅れました。

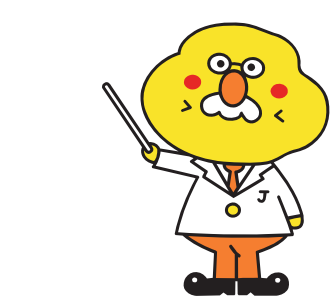
道内の本年産馬鈴しょの作付面積は27,751haとなり、前年に対し18.9%増加、近年続いていた減少傾向に歯止めがかかったものの、依然男しゃく、メークインを中心に生食品種は減少が続いており、加工



品種にシフトしている状況にあります。

収量面では、全道平均(男しゃく)で10ha当り収量3,210kg(前年比94%)となり、主要産地では北見地区が3,380kg(前年比96%)、十勝地区が3,390kg(前年比97%)、倶知安地区は、3,190kg(前年比92%)の反収となっており、全道的に不作基調となりました。

販売環境は、生食向けについては、鹿児島産が天候不順の影響による生産量低下から、市況は高値で推移した経過にありますが、長崎産の一定量の出荷量に加え、後続の関東近在産の出荷が後ずれたことから、6月以降の市況は徐々に下降の状況で推移しました。7月中旬より北海道産の出荷開始に伴い、卸売段階では徐々に北海道産への切り替えが進み、8月は出荷量の増加から市況は



じゃがいも問題研究所 所長キャラクター
「いもうろ所長」
【ホームページアドレス:www.jagaimondai.jp】

緩やかな弱含みで推移したなか、8月下旬の台風等により収穫の遅れによる出荷量の減少や、JRコンテナ運休の発生など輸送の乱れも重なり、卸売段階では消費地在庫が少ない状況で推移、10月以降出荷量は安定したものの、本年の全道的な不作基調の作柄から市場要望量を満たす出荷量となっており、末端での売場が狭いことから荷動きは鈍いものの市況は堅調に推移しております。

加工向け馬鈴しょでは、チップ系・コロッケ、サラダ系を含め加工全般で道産作柄の悪化により需要量を大きく下回ることから、各ユーザーは原料調達に奔走している状況にあります。

今後に向けては、府県産馬鈴しょの生産出荷動向に注視し、最終販売まで見据えた出荷数量のコントロールを図ったなかで、更なる価格浮揚を目指してまいります。



以上のことから、輸出(台湾・韓国)での調整、出荷エリア間の調整、出荷日の調整など生食向け特定工リアへの荷物集中を避けるべく販売環境整備を進めております。

そのほかに全道対策としては、月別出荷計画推進・生食2L規格積比率規制・量販店販売促進活動(メーカーコラボによる販促、特定ユーザーへの大玉対応、輸出・消費地保管などの対策を行い、価格浮揚に向けて取り組んでいます。

加工業務関係は北海道産の出荷最盛期を迎え、安定的な原料調達が可能なことから、ある程度在庫量をもった状況となっております。アメリカ産については昨年と一変して豊作傾向からメインの輸出国である台湾を中心に安価な価格で一定量輸出されています。中国産むき玉はコンスタントに輸入されている状況です。

28年度は昨年に引き続き、近年にない取扱量となっていることから販路拡大はもとより消費地動向を的確に把握し、需給バランスの均衡をはかる販売が必要ことから、全道諸対策を取り進め価格浮揚に向けた取り組みを行ってまいります。

**玉葱
全道的に
二年連続豊作**

全道面積では台風被害による流失・廃耕等もあり12,398ha、きたみらい面積も同様に水害による甚大な被害をつけ、4,441haとなりました。

本年は融雪が順調に進み、植付開始は平年並みの4月24日頃から始まり、その後の天候も好天だったことから作業も順調に進み、植付終了は平年より2日早く終了しました。

植付後は干ばつ傾向でしたが、6月以降は一変して低温で降水量が多



史上最高の収量

きたみらい玉葱振興会
会長 土山 清隆

本年は、府県産の不作によりまして6月7月の玉葱供給量が少なく、きたみらいに対する早期出荷の要請が非常に強い年となりました。会員皆様の努力によりまして8月8日から選果が始まり、盆前からの早期出荷が実現できました。改めて会員皆様に感謝申し上げます。順調に進んでいた収穫も8月17日からの大雨、3つの台風により作業が進まず品質の低下を招きました。またこの台風被害は、過去に例を見ない未曾有の大災害となり150%を超える面積が災害に遭いました。農地だけでなく農舎や農機具にも被害があり、被害に遭われた方々に改めてお見舞いを申し上げます。しかしながら反収は6700*と史上最高を記録し、道内他産地も平年並みということで道内生産量は前年を上回る量となり、現在販売面では苦慮しているところでもあります。

今後、府県産の出荷量が少ない傾向がまだ続くと思われます。これからは販売期間の拡大が大変重要になってまいります。8月の早期出荷、そして年明け5月6月の出荷を考え、豊作年でも価格形成しやすい環境を整えていかなければなりません。

また、今年心配された病害虫(ネギハモグリバエ)については関係機関の協力を得ながら対策を講じてまいりました。徹底した防除のおかげをもちまして大事には至っておりません。会員皆様のご協力を得ながら今後も注意深く観察していかなければなりません。

最後にこれから予想される農協改革やTPP問題など、我々にとって非常に大きな転換期に直面します。たとえどんな結果になろうとも私たちは、消費地や消費者に喜ばれる玉葱を作ることが大事なのだと考えます。

く、その後も引き続き適度な降水量があったことから7月1日では平年並み以上の生育となりました。

7月以降も適度な降水量があり、生育進度は平年並みでしたが、茎長が平年を大きく上回り、地域が少なく、極早生品種から豊作傾向となりました。しかし、8月下旬の度重なる台風の影響で一部の圃場において甚大な水害被害を受けました。

このようななかで10月20日現在の収量は、主産地の岩見沢及び旭川地区はほぼ平年作ですが、網走管内が平年作を大きく上回る6,700kg/10aとなったことから、全道平均では6,050kg/10aと豊作だった

た昨年を大きく上回る二年続けての高収量となりました。

品質は収穫時期の長雨等により汚れや黒シミが多く散見され、また、近年にない大玉傾向から特に外品(抱き玉とムケ玉)発生が平年より多い状況となっております。

本年も昨年に引き続き8月上旬より北海道産(極早生種)の販売が開始されました。府県産(特に佐賀産)の不作からお盆前より北海道産への切り替えが進み、台風の影響から一般野菜不足もあり高値でのスタートとなりました。

9月に入っても、台風の影響による輸送の乱れから、不安定な入荷が続き売り場拡大が遅れましたが、9月中旬以降一斉に各道内産地が出揃い、北海道フェアや特売を行いながら売り場確保に努めました。

10月中旬までは一般野菜の品薄高の追い風もありスムーズな販売が続いておりましたが、10月下旬以降、豊作による取扱量増加と倉庫事情の兼ね合いから、需要を上回る出荷量となっております。道産の作況を踏まえて早期から拡販に向けた売価設定や売場確保に向けた継続的な特売も組まれています。昨年より荷動きは確保されているものの、全体量が多いことから厳しい環境が続いております。

特集 平成28年度
農畜産物を振り返って



**和牛市場は
昨年以上の高値**

きたみらい黒毛和牛振興会
会長 島尻 勝

今年も悪天候に泣かされた1年でした。夏は日照不足、8月には台風が3連続で北海道に上陸し各地に大きな被害をもたらしました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。

10月末にはピート収穫、秋起こし等が終わらないうちに大雪が降り右往左往の毎日でした。

和牛市場は昨年以上の高値で取り引きされています。

全国的に繁殖農家の高齢化、後継者不足等により素牛の不足が続いております。来年後半にはクラスター事業等の効果により素牛不足が解消されるのではとのことです。TPP問題等もありますが、国内需要、海外需要等、期待したいものです。

振興会としては、血統、発育、育種価等の良いものは、積極的に保留し将来に備える様に推奨し各事業を進めております。来年も和牛農家はもとより農家全体が良い年でありますように。

乳用牛
引き合い強く
高値での推移

初妊牛は本年の生乳増産基調によって規模拡大が進み、都府県・道内ともに引き合いが強く、昨年より引き続き高値での推移となっております。この傾向は年明け以降もしばらく続くと思われる、計画的に販売している酪農家にとっては大きな収入源になっております。

廃用牛については、出回り頭数の減少のため高値で推移しておりますが、徐々に値幅は落ち着いてきており小幅な動きになってくる予想されます。

肉用牛
近年での
最高値を記録

繁殖和牛の動きは、春先には小幅な落ち着きを見せておりましたが、その後昨年から余韻により高値へと推移し、10月には近年での最高値を記録しました。

枝肉相場は当初堅調な動きでしたが、ホル肥育は8月の台風による品薄から輸入牛肉が増え若干下がり気味となりました。交雑種肥育では現状維持の状態です。



**情勢変化に対応し
得る安定化に向け**

きたみらい酪農振興協議会
会長 溝井 雅幸

本年を振り返りますと、異常気象に非常に振り回された一年となりました。粗飼料については8月の数回にわたる台風と長雨により、二番草収穫では圃場に入らず作業が進まない状況で大幅に遅れ、また、デントコーンサイレーシ収穫でも悪影響を受け、大変苦労の多かった年でした。

生乳生産では、第一に生乳増産関連対策として搾乳牛増頭事業、第二は畜舎環境改善対策として気象変動に負けない、暑熱対策事業やカウコンフォート改善事業、そして第三に草地植生改善対策事業による高栄養価の粗飼料確保から生産コストの低減を目的に簡易更新機・追播機6台の有効活用推進に努め、利用者も増え自給率の向上にも効果が出てきました。

こうしたなか、生乳生産目標の達成に向け取り組みを行って参りましたが、搾乳中止者に歯止めがかからず生産は伸び悩んでいる状況にあります。本年は、乳価・乳牛の個体価格の高値を維持しておりますが、今後地域として生産基盤の脆弱を招かぬよう情勢変化に対応し得る安定化に向けた取り組みをJA・各関係機関の連携を強化し、酪農の発展・振興に努めてまいりたいと思います。

生乳
搾乳中止者に
歯止めがかからず

平成28年度の生乳生産目標数量は本年度新たな生乳安定生産対策が始まり、従来方式から「生産者の意向」を目標数量として前年対比101・1%に設定されました。

プール乳価では前年据置きではありますが、生乳の振向け先によつて1kg当り前年比で20銭を上積みする対策がとられています。

全国の生乳生産量は前年比累計で100・2%、全道でも101・2%と前年を上回る状況で推移しています。JAきたみらいでは前年比累

計98・5%と伸びを欠き、搾乳中止者に歯止めがかからない状況が続いております。

飼養戸数では直近のデータで全国は4・5%の減少、北海道でも2・8%の割合で断続的に減少しております。飼養頭数でも全国で3・4%、北海道は0・8%が減少しておりますが、一戸当たりの飼養頭数では増加傾向にあります。

当地区の一番草収穫は春先に低温であつたため、その後に気候も回復しましたが、収量では平年と比較し94%ほどの作柄でした。しかし、8月には台風に見舞われ、その後にも2度3度と北海道を直撃しており、二番草では収量調査不能の地区が2

**JAグループは、
日本の農業の未来を作り、
食の安全・安心を守ります。**

食と農を基軸として地域に根差し、消費者の皆様へ安全・安心な食料をお届けします。

JAグループは、協同組合です。協同組合は、組合員の意思に基づき、運営する民間組織です。他の民間組織と同様に自ら事業展開を行います。他者が決めるのではなく、自ら進んで改革をすすめます。

わたしたちは、農業生産の拡大、地域の活性化を目標とし、全国各地のJA・連合会で役割分担をしながら創意工夫ある取り組みを進めています。精米や青果の直販や外食・中食企業等への販売強化で消費者までの距離を縮めます。

農畜産物の海外輸出を拡大して需要をつくります。製造・流通コストを下げ、低価格商品を増やします。JAは、農家と地域を支える金融機関として組合員の経営や暮らしを応援します。

**さらなる自己改革に向けた
重点実施分野**

- 担い手経営体のニーズに応える個別対応
- マーケットインに基づく生産・販売事業方式への転換
- 付加価値の増大と新たな需要開拓への挑戦
- 生産資材価格の引き下げと低コスト生産技術の確立・普及
- 新たな担い手の育成や担い手のレベルアップ対策
- 営農・経済事業への経営資源のシフト



JAグループは、これまでも、そしてこれからも、消費者の皆様や生産者の皆様、そして地域の皆様のために、さらに加速して改革を続けます。

耕そう、大地と地域の未来。JA全中

地区生じて大きく収量を落としています。

デントコーンでは同様に台風に影響され、平年作と比較すると97%の収量に留まっています。さらにその影響は粗飼料の品質低下にもあらわれ、次年度の生乳生産に懸念が残る年となりました。

JAでは昨年に続き生乳増産対策事業を継続実施しており、目標達成に向けての呼び水として展開させ、生産基盤の確立を目指してまいります。また、生産技術向上や経営指導の実施においても、各種情報を提供し搾乳中止農家の分まで生乳の増産を目指していくことを目標に取り組んでまいります。



◇生乳生産実績

	目標数量 (ト)	27年度 実績対比	28年4月～10月 数量(ト)	進捗率
全道	3,853,448	101.2%	2,256,961	58.6%
管内	568,914	100.2%	331,428	58.3%
きたみらい	88,980	98.5%	52,176	58.6%

◇衛生的乳質実績（28年4月～10月）

	生菌数		体細胞数	
	(1.4万以下)	前年増減	(30万以下)	前年増減
全道	98.5%	△0.2	98.1%	△0.4
管内	98.4%	0.1	97.7%	0.3
きたみらい	98.8%	0.8	97.1%	1.5



相内地区では11月23日、ジュニア4Hクラブの収穫祭が行われました。

この行事は毎年恒例となっており、子どもたちに播種から収穫、調理までの体験を通じて食の大切さを学んでもらおうと、同クラブが春から栽培していた馬鈴しょ、玉ねぎ等を調理し食べる食育の一環として行われています。

当日は厳寒のなか、総勢60人を超える参加者で豚汁作りや餅つき、綿あめ作りなどを行いました。子どもたちは白い息を吐きながら、和気あいあいと調理体験をしていました。

同クラブの会長を務める飯田紀さんは「最近の外に出て体験できる場が少なくなっている。このクラブの活動で少しでも多くの子どもたちが農業や食の大切さについて考えてもらえればうれしい」と話してくれました。

同クラブの今年度の主な活動は終了となりますが、来年度も播種体験などを行う予定です。（菊池 光祐）



▲一生懸命もちをつく子どもたち

西地域 相内 体験を通じて 経験に

～相内ジュニア4Hクラブ収穫祭～



▲式辞を述べる西森孝広組合長

▶来賓の福島中央青果卸売(株)の五十嵐芳光副部長

南地域 訓子府 たゆまぬ研鑽 更なる進化へ

～訓子府町馬鈴薯耕作組合設立50周年～

訓子府町馬鈴薯耕作組合（西森孝広組合長）は11月15日、町公民館にて会員他141名の出席のもと設立50周年記念式典を行いました。

式辞で西森組合長は「たゆまぬ研鑽と情熱を、さらなる進化に向けて次の50年に引き継ぐことが我々の使命」と耕作組合の発展を誓いました。

来賓の福島中央青果卸売(株)の五十嵐芳光副部長は「先人の努力が現在の組合員へと継承されていることに感銘を受けている。特に青年部員には将来に向かう訓子府の力を感じた。そして、日本一の馬鈴薯産地になって欲しい」とJAきたみらいの馬鈴薯振興に期待を寄せました。

式典では歴代組合長他6名へ、西森組合長から感謝状が手渡されたほか、訓子府中学校吹奏楽部による「スノーマーチのうた」の記念演奏も行われ華やかなものとなりました。

（神田 貴章）



地

域

だ

よ

り



青年部端野支部（加藤葵支部長）は11月24日、25日に視察研修を行い、部員12人が参加しました。

初日は雪印メグミルク(株)大樹工場を視察。チーズの製造過程のほか、熟成に関わる菌類と衛生管理の取り組みについて学びました。

次に、池田ワイン城ではワインの製造を見学し、地域の特産品づくりについて視察しました。

翌日は北海道セイカン工業（幕別町）を視察。敷地内を見て回り、大型コンテナを見学したほか、企業の取り組みについて説明を受けました。部員らは積極的に質問し、有意義な研修となりました。

懇親会では部員同士の交流も図り、更なる絆づくりを行いました。

（高田 陽介）

東地域 端野 視察研修で 絆づくり

～青年部端野支部～



▲北海道セイカン工業の事業取り組みについて説明を受ける部員のみなさん

東地域 北見 輸入機械について学ぶ

～青年部北見支部～



▲輸入機械について説明を受ける部員のみなさん

青年部北見支部（大林宏信支部長）は11月24日、25日に視察研修を行い、部員11人が参加しました。

初日は株式会社アグリダイレクト（帯広市）を視察。敷地内を見て回り、最新の農業機械を見学したほか、輸入機械の特徴について学びました。部員らは輸入機械やタイヤなど、様々な取扱商品を間近で見ながら質問し、説明を受けました。

次に、とかち村では多彩な販売コーナーを見て回り、地域の魅力発信について視察しました。

翌日は柳月スイートピアガーデンにて工場見学。安全で質の高い製品づくりや地域から愛される企業の取り組みを学びました。

部員同士の交流も図り、今年の営農を仲間同士で振り返りました。

（高田 陽介）

きたみらいの
ホープさん



- 趣味は？
読書、インターネット。
- 好きな食べ物は？
焼肉。ラーメンのとんこつ系も好きで、たまに食べ歩きをします。
- 理想の女性像は？
包容力があって引っ張ってくれる人。
- 農業で学び実感したことは？
まだ半人前ですが、食べ物を供給する側としての責任を感じます。
- 今後の抱負は？
そそかしい性格なので、怪我をしないよう、仕事を覚えていきたいです。

(高田 陽介)

英哉さんは畑野複合経営の幸さん、るり子さん夫妻の長男で就農して2年目になります。

**食べ物を供給する
責任を感じる**

北見地区・開成

前澤 ^{ひで}英哉さん(30歳)

**プリティ
ウーマン**



**気軽に参加出来る
女性部に**

置戸地区・川南

中尾 のぶ子さん(57歳)

今回は平成28年度女性部置戸支部支部長の中尾さんにご登場いただきました。(石井 睦美)

◆出身とご主人との出会いは？

道南・知内町の出身です。若者の交流イベントに参加し、そこで仲良くなった子が置戸在住でした。その友人を通じて主人と知り合い、置戸までやってきました。

◆ご自身の性格は？

深くものごとを考えすぎず、なるようになるさ！と思って過ごしています(笑)結婚する前は慎重なタイプでしたが、自然や生き物を相手に仕事をするようになり、思い通りに行かないことの方が多いので、考え方が変わりましたね。

◆趣味は？

パッチワークです。趣味というよりはライフワークになっていて、私にとってはなくてはならないもの。いろんな手芸を習いましたが、やはり一番私に合っていたのはパッチワークでした。

◆組織活動で楽しいこと、今後の抱負は？

みなさんには気楽に活動に参加して欲しいです。時には難しい問題にぶつかることもありますが、考えすぎず、同じ仲間同士で活動を楽しんでもらいたい。そして、また仕事をがんばる原動力となればいいと思います。

Qお付き合いのきっかけは？

中学校の同級生で、中三の頃から付き合い始め、二十歳のときに結婚しました。

Q趣味は？

満 さん：クライミング。

真子さん：釣り。共通の趣味で、毎年、海に出かけています。

Qこれからしたいことは？

家族揃って旅行に行きたいですね。

Qお互いの感謝の言葉

満 さん：いつも怒らないでくれてありがとう。

真子さん：いつも好きなことをさせてくれてありがとう。

写真は長男の由貴緒くん(11歳)、長女の菜々子ちゃん(9歳)、次女のももこちゃん(2歳)と一緒に撮影しました。

(高田 陽介)



なかよし夫婦

家族揃って旅行へ

北見地区・豊地

井上 ^{みつる}満 さん(32歳)
^{まこ}真子さん(32歳)

記念の一枚



▲千葉県銚子市犬吠埼で撮った集合写真
(下段の右から2番目が中西さんです)

**違うやり方や
価値観を学ぶ**

訓子府地区・豊坂

中西 ^{さとし}里志さん(35歳)



中西さんの記念の一枚は、2011年に千葉県銚子市犬吠埼で撮った写真。これは置戸町と訓子府町の教育委員会が主催するまちづくり青年・産業後継者研修に参加したときのものです。

この研修は毎年行われており、両町の農業・商工業の後継者を対象としており、参加者自ら先行や行程、視察先の依頼など計画の立案、実行、報告書の作成をしました。

この時の研修が開催2年目の年で、両町の農業者のみとなり、ヤマサの醤油工場や東京市場を見学し、府県の農業について学びました。

中西さんは「この研修に参加して、北海道とは全然違うやり方で農業に取り組んでいて、それを見学し、いろいろな方法があるんだなあと感じた。また、初めて会う人たちと計画、実行、報告を行うことで自分たちだけで組み立てる喜びを知った。そして、知らない人との交流やまだ行ったことのない街で過ごすことは自分の価値観を大きく変えてくれた」と話してくれました。

(神田 貴章)

INFORMATION



▲JA北海道大会実践フォーラムの様子



▲サポーターづくりについて報告する高橋常務

農業経験で消費者と交流

JA北海道大会実践フォーラム で当JAが事例報告

JAグループ北海道は11月2日、札幌市でJA北海道大会実践フォーラムを開き、各JAの代表ら約750人が参加しました。「農業所得20%増大」「550万人サポーターづくり」など目標の達成に向けた取り組みをJAいわみざわ、JAきたみらいが報告し、有識者を交えパネルディスカッションを行いました。

「550万人サポーターづくり」のテーマでは当JA高橋優常務が農業体験などで消費者との接点を作っていると報告。「参加する」サポーターづくりの一例として、地域住民から多数の申し込みがあった親子農業体験ツアーや、農家子弟を対象にした東京での農産物販売体験ツアーなどを説明。「食べる」「利用する」「行動する」サポーターづくりの取り組みも話しました。

お笑いコンビ「オクラホマ」の河野氏は「農業体験はとても大事で、体験をきっかけにファンになればずっと続く」と強調。道民は野菜のおいしさや安心・安全なことが当たり前になっていると指摘し、体験などをきっかけに気付いてもらう大切さを訴えました。

	JA(農業協同組合)	株式会社
目的	組合員の営農と生活を守り向上させること	利潤の追求
組織者	組合員(=農業者)	株主(=投資家、法人)
利用者	組合員	顧客(不特定多数)
運営者	組合員(代表として理事)	経営者(株主代理人)
運営方法	1人1票制(民主的運営)	1株1票制(株主支配)

【連載】今こそJA! ~その意義と役割~

第2回 JAと株式会社の違い

みなさんはJAと株式会社の違いをはつきりと言えるでしょうか?今回はわかつていようでわかっていないJAと株式会社の違いについて考えてみましょう。

株式会社の社長の責任である」という言葉で株式会社をわかりやすく表現していました。一方、JAの目的は組合員の営農と生活を向上させることであり、営利を目的とはしていません。JA事業で収支がプラスとなった場合、それは利益ではなく剰余金となります。ここが決定的に違います。

また、組織運営を比較すると、株式会社は組織者は株主であり、利用者は不特定の顧客であり、経営者は株主の代理人である取締役社長などの経営者です。JAはどうでしょうか?組織者も利用者も運営者も組合員、すべてが組合員の組織であることがわかります。

次に、JAと株式会社では組織決定の方法も異なります。株式会社の場合、株式を多く所有する株主が会社を支配することができ、JAの場合、一人の組合員に与えられる議決権はあくまでも一票です。このことが民主的運営の基盤となっています。

それではJAと株式会社に共通点はないのでしょうか?前述の堀江貴文氏は「成功する人は他人の力を上手に利用できる人である」とも言っています。組織を左右するのは人であるという点においてJAも株式会社も同じといえるかもしれません。

JAグループ通信 「JA北海道大会 実践フォーラム」特集号

「JA北海道大会実践フォーラム」では、昨年の第28回JA北海道大会の決議事項に対する実践機運を高めること等を目的に「農業所得20%増大」と「550万人サポーターづくり」をテーマとするパネルディスカッションと、JAグループからのメッセージとして決議事項の実践状況を発信しました。以降、メッセージの内容を掲載します。

JA北海道中央会

私たちは大会決議事項である「所得20%増」「担い手倍増」「サポーター550万人づくり」「JAグループの人づくり」等、息の長い取り組みを続けて行かなければなりません。今後も、協同の理念のもとで着実に実践を積み重ね、農業・JAの意義をグループ内外に積極的に発信し続けながら、北海道農業の価値を高めて行くことで道民や国民に信頼され愛されるJAグループになることを目指してまいります。



JA北海道信連

新規担い手倍増、農業所得増大の取り組みとして、各連合会が連携しての「後継者親元就農」「ICT導入」等へ助成支援する「担い手確保・育成支援事業」の実施や後継者等向けに借換による償還負担軽減を図る資金を創設しました。

また、550万人サポーターづくりとしてコンサドーレ通帳の発行、親子料理教室、「ドローン貯キヤンペーン」の実施等、JAファンづくりに取り組みました。

今後、選ばれるJAバンクを目指して取り組んでまいります。



ホクレン

『販売・購買・営農支援を三位一体とする事業運営』を基本戦略とし、「価値向上」「生産性向上」「コスト低減」の実践を通じて「農業所得の向上」を目指すとともに、経営の合理化による配当の向上、主要品目全般における手数料の引き下げ、各種奨励施策の実施など、生産者・会員JAへの最大限の還元に努め「皆様に選ばれるホクレン」を目指します。



JA共済連北海道

「相互扶助」を事業活動の原点に「ひと・いえ・くるまの総合保障」により、組合員・利用者が健康で安心して暮らせる地域社会づくりに貢献しています。

今後引き続き農業経営に貢献する取り組みと、JA支援の強化を重点事項として、地域密着の社会貢献活動を展開しながら組合員・利用者との結びつきを深めてサポーター550万人づくりに取り組めます。



JA北海道厚生連

厚生連は、設立以来「農民の健康保持と生活文化の向上」を目指し、安心して暮らせる地域社会と農村の環境づくりに寄与してまいりました。

今後についても、地域のつながりを守る生活基盤としての機能発揮と、道民と食と農でつながる550万人サポーターづくりへの貢献を「医療・健康管理・高齢者福祉・配置薬」の視点から推進し、取り組んでまいります。





積極的に学び 意見を出し合う フレミズ学習会

J Aきたみらいフレッシュミズでは、平成26年から学習会を行い、積極的に農業に関する基礎知識を学んでいます。本年度は6月14日に第1回、11月2日に第2回を開催しましたので、内容についてご報告致します。

第1回学習会はテーマⅠとテーマⅡの二部構成で行われ、会員40人が参加しました。

テーマⅠは「きたみらい地域の農業・関連団体について」。フレッシュミズ会員が普段関わることの少ない、農業改良普及センターについて、専門普及指導員の佐竹真美さんよりお話していただきました。佐竹さんは普及センターがどんな仕事をしているかを紹介したうえで、「困ったことがあれば気軽に相談してほしい」と呼びかけました。続けてJ A企画振興グループ職員からJ Aきたみらいの概要とJ Aグループなど関連団体について説明しました。

テーマⅡでは初めてグループディスカッションを実施。「みんなのアイデアで農業をより良くしよう!」というテーマのもと話し合いました。

7班に分かれ、普段の農作業や生活面での疑問・アイデアなどを一人ひとり発言し、班ごとに一枚の模造紙にまとめあげました。

最後には班ごとに話し合いの成果を発表。悩みや疑問を打破するユニークな考え方も飛び出し、「楽しく相談しあえた」「他の家でやっている作業方法が参考になった」などの感想も聞かれました。

第2回学習会は主要生産物の基礎を学ぶ内容とし、畑作分野と畜産分野の選択制で開催。35人の会員が参加しました。

畑作分野の講師はJ A技術開発グループの庄子隆之マネージャーが務め、午前には玉ねぎ、午後には馬鈴しょ、てん菜、小麦の畑作三品について説明。苗床の作り方から、気を付けるべき病気、収穫に至るまでの一年間の流れに沿って学習しました。

畜産分野は農業改良普及センターの田口容土係長が講師を務めました。時折会員からの質問を交えながら、基礎的な作業について解説して頂きました。



①②③：活発なグループディスカッション
⑤：畜産について学ぶ会員のみなさん

④：出し合った意見をみんなの前で発表
⑥：畑作について学ぶ会員のみなさん



▲参加者全員で記念写真



▲選手宣誓する川畑監事(左)、井上監事(右)



▲挨拶を述べる
大坪専務

J Aきたみらいフレッシュミズ(米森絵里香会長)は11月16日、訓子府町スポーツセンターにて会員交流研修会として運動会を行い、会員62人が参加しました。
この運動会は平成16年から毎年開かれ、今年で13回目。5つある支部の交流を目的として行われており、今年も支部混合の6チームに分かれ、団結して競技に臨みました。



▲接戦に白熱したお着替えリレー

米森会長は「この研修会を通して会員のみなさんが街角で遇っても気軽に声をかけ合えるような仲間になればと願っています」と挨拶。役員の川畑美由紀監事、井上真子監事が「農作業や家事のことは忘れ、女性らしく時には勇ましくプレーします」と選手宣誓しました。参加者は玉入れや10人11脚など運動会の定番競技のほか、本部役員が考案した新競技など7種目に挑戦し、好プレーに歓声や拍手が送られました。
運動会の終了後は同J A訓子府地区事務所にて会場を移し、懇親会が行われ、役員が考案したチーム対抗のゲームでさらに交流を深めました。



▲息を合わせて10人11脚



▲コンビネーションが試されるレスキューゲーム

熱戦の運動会 J Aきたみらいフレッシュミズ研修会

INFORMATION

青年 女性 ネットワーク



▲青年部活動について発表する引地部長



▲つながりプロジェクトとして行った各活動



▲JA 青年組織綱領を朗唱する青年部役員のみなさん



▲農村ホームステイの体験を話した佐野教諭（右）

オホーツクJA青年部協議会は11月8日、温根湯温泉ホテル大江本家で第45回オホーツクJA青年部研修大会を行いました。

「届けよう！発信しよう！私たちの誇り」を大会テーマに掲げ14単組から約100人が参加。オホーツクJA青年部活動実績発表大会、基調

講演のほか、農村ホームステイ受入実績発表、動画コンテストが行われました。

活動実績発表では引地隆之部長が平成15年に当JA青年部が設立されてからの活動を報告。今年からの活動では、僕らの「つながり」プロジェクトとして、地域住民、盟友、異業種、組合員との交流活動を発表。北見冬まつりでの手作りスープの配布や、食育活動などを説明し、優秀賞に選ばれました。

農村ホームステイ受入実績発表では、当JA管内で取り組んだ網走西が丘小学校の佐野教諭が「収穫作業

を間近に見て、普段知ることがなかった農業の魅力を肌で感じることができた。子どもたちにも伝えていきたい」と振り返りました。

基調講演では、ぐいぐと「あいいうえお」エグゼクティブプロデューサー・谷口貴之氏が「オホーツクの食と地域の魅力発信について」と題して講演。YouTubeを活用した情報発信などを説明。「世の中にはチャンスが満ち溢れている。ノリの良さが大事」だと自ら行動することの大切さを話しました。

活動実績発表で優秀賞

オホーツクJA青年部研修大会



▲コミュニケーション講座に取り組む参加者のみなさん



◀開会挨拶を述べる武田部長



▲コミュニケーションのコツを伝える講師の安達氏



祝辞を述べる大坪専務

笑いに包まれつつ 交流深める

JAきたみらい女性部 部員交流研修会

JAきたみらい女性部（武田志津子部長）は11月18日、北見市民会館にて部員交流研修会を開催し、初参加のフレミズ会員19人を加え128人が参加しました。

同研修会は平成18年から隔年で開催されており、今年で7回目。開会にあたり武田部長は「今年は相次ぐ台風による被害、農作業に遅れが生じたが、みんなで励まし合いながら収穫を終えることができた。今年はフレミズからも参加して頂いたので、幅広く交流し、更なる女性部活動へ繋げていきたい」と挨拶。

来賓の同JA大坪広則代表理事専務は「地域ではコミュニケーションが不可欠。改めて学び、今後に活かして欲しい」と祝辞を述べました。

午前の部は北見市観光大使を務めるフリーアナウンサーの安達祐子氏が「北海道の食と観光からみたオホーツクの価値」「聞く力、話す力、伝える力で磨くコミュニケーション講座」と題し講演。北見市出身ならではの話題から地域産業へと掘り下げ、「未来は玉葱にある」と地元グルメの魅力を話しました。オホーツク塩焼きそばでは「子どもたちに何が残せるか」と参加者に問いかけ、子どもの頃から食べていたと言ってもらえるよう活動を続けていると話しました。

コミュニケーション講座では信頼されるには小さい約束を守ることが大事だとし、二人一組で聞く、話すコツの実践も行い、会場は時に笑いに包まれました。

午後の部は「ドライフラワーアレンジメント」「笑いヨガ講座」「お茶の淹れ方講座」に分かれ、更なる部員交流を深めました。



▲協力しながらドライフラワーを飾り付け



▲みんなで楽しく、それ～！



▲みんなで美味しいお茶の味くらべ

産物輸出促進協議会設立



▲北見産農産物輸出促進協議会の設立メンバー



▲現地調査の報告をする小澤主幹

玉葱の輸出本格化へ 北見産農産物輸出促進協議会設立

北見市とJAきたみらい、JAところは11月4日、北見市内で北見産農産物輸出促進協議会の設立総会を開きました。北見産玉葱のロシア向け輸出を本格的に取り組むため、北見市、北海道銀行、JA、ホクレン、北見通運を含めた官民一体の組織が発足しました。

総会では会長に辻直孝北見市長を選出、事務局を北海道銀行北見支店に置くこととし、地方創世の観点から、輸出先に対するPRなど輸出促進に資する活動を設立の目的としました。また、現地調査の結果を、当JA販売企画部玉ねぎグループの小澤主幹が報告しました。

現地調査では、本年5月に2JAはロシアのウラジオストク市とハバロフスク市を訪問し、北見産玉葱の輸出の可能性などを視察。現地スーパーに並び中国産やロシア産の玉葱は、皮が剥けていたり、芽が出ているものも多く、現地スーパー7社との商談では「今すぐ販売したいという話が出るほど好感度だった」と報告しました。

総会後の記者会見では報道陣を前に、当JA西川組合長は「F1品種は玉締まりが良く、輸出に適している」と産地としての自負を話しました。

今後は来年からの本格輸出に向け、人的交流を開始。本年10月に石狩湾新港から釜山を経由する船便で玉葱5トンをウラジオストクへ試験輸出しており、また来年8月にはロシア企業を北見市に招待し、玉葱圃場や選果場、グリーンズ北見の加工場を視察、個別商談などをする予定です。

現在、「環」は16戸が約23㍑、「真白」は16戸が14㍑を栽培。「環」は2014年産からホクレンとコープさっぽろがタイアップして販売を始めました。「コープ未来（あした）の森づくり基金」に対し、1パック購入ごとに1円を基金に積み立て、道内14カ所でコープ組合員の植樹活動や森づくり活動に活用しています。

今年度からは、「真白」も同様に基金に積み立てを開始。組合員の環境意識への高まりもあり、今年度は約53万円の積み立てを予定しています。

（転載元：日本農業新聞2016年10月27日）



▲感謝状を贈られたみなさん

森づくりに貢献 コープさっぽろから表彰

コープさっぽろは10月26日、4者（JAきたみらい、北見市玉葱振興会特別栽培部会、北見市こだわり野菜部会、ホクレン）に感謝状を贈りました。

環境に配慮した減農薬・減肥料で栽培した玉葱「環（めぐる）」と「真白（ましろ）」の販売を通じ、森づくり活動に協力したことが評価されたものです。

感謝状の贈呈式は、札幌市西区のコープさっぽろ本部で行われ、ホクレン農産事業本部の時田明本部長は「基金の活動が広がり、北海道の環境保全に貢献したい」と挨拶。コープさっぽろの会田彰常務より感謝状が贈られ、4者を代表し当JA販売企画部玉ねぎグループの加藤秀樹マネージャーが受け取りました。

特別栽培部会の田中知行部会長は「環には環境への配慮のほか、消費者らとの絆を大切にする意味もある」、こだわり野菜部会の藤原義忠部会長は「健康と環境を維持していくことにこれからも協力していきたい」と話しました。

人のオススメ情報!

トヨタの新車が続々登場!

C-HR
先行予約受付中!

- C-HR S-T 4WD 2,540,160円(税込)〜
- C-HR HYBRID S 2WD 2,674,080円(税込)〜

ROOMY
ルーミー/タンク

TANK
ルーミー/タンク カスタム

※写真はイメージです。実際はカラーGとなります。

●ルーミー/タンク G 2WD 1,643,760円(税込)〜

●ルーミー/タンク カスタム G 2WD 1,794,960円(税込)〜

※掲載車両には登録費用は含まれておりません。

新車 早期予約キャンペーン

平成28年12月26日(月) 受付分まで

登録期間は平成29年1月1日〜3月31日まで

※掲載の車両本体価格には登録費用は含まれておりません。

SUZUKI 期間中、スズキの乗用車(新車)と成約で下記付属品 A〜Eの中から好みの1点をもちろなくプレゼント!

乗用車

- アルトS 847,800円(税込)〜
- パジェロX 1,461,240円(税込)〜
- パジェロX HYBRID MZ 1,778,760円(税込)〜

さらにもちろん! ホクレンブランドオイル エコドライブまたはマツダ400のいずれか一つプレゼント!

トラック 期間中、キャリイまたはサンバートラックを新車でご成約で付属品プレゼント!

付属品6品プレゼント!

- シガーライター
- カーナビ
- リアゲート(フットボード)
- リアゲートチェーン
- フロアマット(4枚)
- スノーブレード
- スタッドレスタイヤホイールセット
- スリッパ

スズキ キャリイ 4WD 847,800円(税込)〜

スズキ サンバートラック 804,600円(税込)〜

バン 期間中、エブリイまたはサンバーバンを新車でご成約で付属品プレゼント!

付属品6品プレゼント!

- フロアマット(4枚)
- スノーブレード
- カーナビ
- リアゲートチェーン
- フロアマット(4枚)
- スタッドレスタイヤホイールセット
- スリッパ

スズキ エブリイ 847,800円(税込)〜

スズキ サンバーバン 804,600円(税込)〜

※登録費用は別途要となります。スズキ キャリイ/サンバートラック/バンは、本キャンペーン対象外となります。※成約はクレジット決済となります。一部対象外となる車種がございます。※写真はイメージです。

【お問い合わせ先】 JAきたみらい 燃料自動車グループ 常呂郡訓子府町駒里44番地2 生産資材拠点センター (☎ 0157-47-2099)

秋の農業用廃プラ回収を実施

JAきたみらいでは11月8日から9日の2日間、北見市西相内の小麦乾燥調製貯蔵施設内で農業用廃プラスチックの回収を行いました。当JAでは春と秋の回収を行っており、今回は約100トンを回収しました。

廃プラスチックの処理にあたっては、環境負荷の軽減、資源の有効活用などから、再生可能な資源としてできる限りリサイクルをすることが求められており、農薬空容器などは洗浄したものを回収し、処理業者によって適正に処理されます。

集められた廃プラスチックは今後、発電用燃料として12月上旬までに処理業者へ運搬される予定です。



▲農業用廃プラスチックの回収作業

廃品回収で地域貢献

留辺蘂地区では11月9日、廃品回収が行われました。この取り組みは当JA女性部留辺蘂支部が環境整備することによる地域貢献と活動資金の一助を兼ねて農閑期の春と秋に年2回行っています。

当日は冷え込みの厳しい日でしたが、出役した9人の女性部員は白い息を吐きながら集められた新聞紙やダンボール、空き缶などを手際よく仕分けしました。30分ほどで回収車2台が満載になり、全体で約4トンを集まりました。

茂住真澄支部長は「毎回家の片付けにもなるからと08部員も協力をしてくれて感謝している。この回収で得られた代金は今後の充実した女性部活動のために大切に使用していきたい」と話しました。



▲協力しながら回収を行う女性部員

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



11月号まちがいさがしの当選者

11月号のまちがいさがしの答えは「2、4、5、7、10」でした。正解者47名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。

()内は地区名

- ・武田 ひとみさま (相 内) ・織田 田鶴子さま (相 内)
- ・伊東 咲乃さま (置 戸) ・小林 夏樹さま (置 戸)
- ・諸橋 陽子さま (訓子府) ・佐々木 浩三さま (訓子府)
- ・小山田 紗希さま (訓子府) ・合田 まゆみさま (上常呂)
- ・小川 圭祐さま (北 見) ・廣川 玲子さま (端 野)

以上の方々には、JAきたみらいのオリジナルカレンダー3種類をプレゼントします。

応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。

抽選で10名の方に、JAきたみらいの「玉葱の塩だれ」「玉葱醤油」「オニオンコンソメ」をセットにしてプレゼント致します。

新 コーナー?の【連載】今こそJA! 分かりやすくして良いですね!! 次回も楽しみにしています。いつもどのページも楽しみにしています。編集委員の皆さん、がんばってください!

(匿名希望)

ありがとうございます! いつも皆さんに「楽しみにしています」とコメントを頂き、とても嬉しいです。今後も皆さんが学べて、おもしろいと感じるような記事作りをしていきたいと思います。

最 近我が家の調味料がきたみらいの商品で占められています。

おいしい物がたくさんありますネ!

(上常呂地区 合田 まゆみ)

いつも当JAの商品を使っていたありがとうございます。どの商品もイチオシです!!

ちなみに、個人的には玉ねぎの塩だれが大好きです。皆さんはなにが好きですか? ?

読者の声

11 月入ってすく雪、びっくりしましたね!

(端野地区 廣川 玲子)

本当にびっくりしました!

寒さの本番はこれからなので、防寒をしっかり行い、体調管理に気をつけましょう!

今 年は早い雪にびっくりでしたね。無事収穫も終わり、体力を落とさないよう運動、食事に気をつけたい毎日です。

(訓子府地区 諸橋 陽子)

北見をはじめ、道内各地で例年より早い雪が降り、驚いています。これからの季節は食事、運動、睡眠の3つに気をつけ、元気に冬を過ごしたいものです。

第10回 理事会報告

11月22日、午後1時30分より第10回定例理事会が開催され、報告事項18件、決議事項10件、協議事項1件が協議され、原案通り承認されました。

- 【報告事項】
- ①内部監査(営農・販売・ふれあい部門)報告について
 - ②組合員状況報告について
 - ③財務状況報告及び決算見込について
 - ④全国監査機構期中監査報告について
 - ⑤28.8大雨災害に係るお見舞状・お見舞金の報告について
 - ⑥コンプライアンス事故報告概要について
 - ⑦反社会的勢力等との取引排除および組織犯罪等の防止にかかる対応状況について
 - ⑧28.8大雨災害に対応する資金について
 - ⑨クミカンの他支店対応について
 - ⑩相統定期貯金の新設について
 - ⑪自動車損害調査体制再構築に向けた取組み対応について
 - ⑫H28年度産計玉ねぎ・馬鈴しょの選果販売状況について
 - ⑬生乳生産状況及び個体取引価格について
 - ⑭2016長いも祭り収穫感謝祭実績について
 - ⑮きたみらいS S愛車点検会員制度の実施について
 - ⑯サン園芸「四季倶楽部」の実績について
 - ⑰【JA版】農業経営継承意思確認書の一部改正について
 - ⑱人事発令について

- 【決議事項】
- ①出資減額について
 - ②規定額の制定について
 - ③年末手当の支給について
 - ④H28年度自己査定における土地評価及び債務者区分の判定に係る考え方について
 - ⑤平成28年度災害対策に係る年末クミカン整理対応について
 - ⑥「JAきたみらい自然災害等対応マニュアル(改定案)」について
 - ⑦H29年度馬鈴しょ取扱細則の設定について(スノーマーチ)
 - ⑧玉ねぎ一次加工施設の整備計画について
 - ⑨平成29年度事業推進方針について
 - ⑩期中還元について

- 【協議事項】
- ①相内S Sセルフ化について

退職のお知らせ

平成28年11月25日付で職員が退職しましたのでお知らせ致します。

在職中は、組合員皆様をはじめ、地域皆様のご厚情を頂き誠にありがとうございました。



五十嵐 竜大
(総務企画部 企画人事グループ)

- ・H6.4 北見市農協入組
- ・H15.2 北見支所営農課
- ・H22.5 金融共済部共済課
- ・H26.5 総務企画部企画人事グループ

在職期間 22年

各店舗窓口のご案内

- | | |
|--|--|
| 本店
北見市中ノ島町1丁目1番8号
☎(0157) 24-2146 | 温根湯支店
北見市留辺蘂町温根湯温泉157番地
☎(0157) 45-2070 |
| 留辺蘂支店
北見市留辺蘂町仲町50番地
☎(0157) 42-2212 | 置戸支店
常呂郡置戸町字置戸46番地
☎(0157) 52-3111 |
| 訓子府支店
常呂郡訓子府町仲町25番地
☎(0157) 47-2567 | 相内支店
北見市相内町184番地
☎(0157) 37-2021 |
| 上常呂支店
北見市上とろろ180番地
☎(0157) 38-2122 | 端野支店
北見市端野町3区483番地17
☎(0157) 56-3113 |

収穫の喜びを分かち合う

当JAは11月22日、センター事務所で収穫感謝祭を行いました。昨年に続く2回目の開催で、JA役員、生産者組織連絡協議会の構成団体と組合員三組織(青年部・女性部・フレミズ)の代表など48人が参加しました。

事務所内に祭られた神前に参拝の後、きたみらい産のもち米で炊き上げた赤飯、地場の農産物・豚肉で作られた豚汁による昼食懇談会となりました。各組織の代表が本年の営農を振り返っての感想を述べ、8月の大雨による被害に見舞われた年となったことを語り合いました。

結びとして青年部引地隆之部長の手締め、大坪専務の挨拶により懇談会を閉会しました。



▲開会挨拶を述べる西川組合長

冬貯金

キャンペーン

11/1(火) ~ 12/30(金)

1年定期 1,000万円以上 **0.15%**

取引条件により さらに **+0.10%**

上記以外の期間・金額等により **0.05% ~ 0.20%**

JAきたみらい

詳しくは、お電話に JAバンク窓口までお問い合わせ下さい。



【材料：4人分】

カボチャ……………300g
ニンジン……………100g
タマネギ……………100g
水……………3カップ
EVオリーブ油……………大さじ1
塩……………適量
こしょう……………適量
ナツメグ……………少々

カボチャとニンジンの甘いスープ

【エネルギー約105kcal(1食当たり)】

【作り方】

- ①カボチャは一口大に切り、塩少々を振っておく。ニンジンとタマネギは薄切りにする。
- ②温めた鍋にオリーブ油を入れ、タマネギが甘い香りがするようになるまで弱火で7～8分炒める。
- ③②にカボチャとニンジンを入れ、3～4分炒めてから水を加える。ふたをして、沸騰してから弱火で15分ほど煮込み、塩・こしょう・ナツメグで味を調えて火を止める。
- ④ミキサーなどにかけて滑らかにする。鍋に戻し、温めてから器に注ぐ。

メモ

野菜の甘味があふれるシンプルなスープです。ビタミン・ミネラル・βカロテンなどが豊富で、風邪の予防や免疫力アップなども期待できます。これから寒くなる季節にピッタリ。



【材料：2人分】

8枚切り食パン……………4枚
リンゴ……………1/2個
レタス……………2枚
スモークサーモン……………60g
レモン汁……………少々
マヨネーズ……………大さじ3
粒マスタード……………小さじ2
塩……………少々
ディル……………1～2本

リンゴ&サーモンのサンドイッチ

【エネルギー約496kcal(1食当たり)】

【作り方】

- ①リンゴは皮と芯を除き、薄切りにしてから塩とレモン汁を振り掛ける。レタスは適当な大きさに手でちぎる。
- ②ディルは刻んでおく。
- ③マヨネーズと粒マスタードを合わせる。
- ④パンに③を塗り、リンゴの薄切り・スモークサーモン・ディル・レタスの順番に載せてサンドする。
- ⑤ラップでしっかりと巻き、冷蔵庫に1時間ほど入れておくとなじむ。
- ⑥お好みでパンの耳を切り取り、半分に切る。

メモ

リンゴのシャキシャキとした新食感が楽しめるサンドイッチ。甘酸っぱいリンゴと香り豊かなスモークサーモンとの相性も抜群です。サンドしてからラップでしっかりと包み、冷蔵庫に1～2時間入れるとよくなじみ、さらにおいしくなります。

編集後記

- ・特集ではこの1年間を農畜産物ごとに振り返りました。今年は相次ぐ台風や例年よりも早い積雪など、大変な天気に悩まされたのではないのでしょうか。私自身も自然の力を痛感した年でした。来年は穏やかであることを祈るばかりです。
- ・またJAからのお知らせでは青年部・女性部・プレミアズの活動をまとめてご紹介しました。各組織では、仲間との交流や絆づくり、地域との繋がり強化、知識向上に向けた取り組みなど魅力的な活動がたくさんあります。いつもよりも多く写真も掲載しましたので、参加者の表情からも“組織の魅力”を感じ取ってもらえると嬉しいです。
- ・今年も残すところ1ヶ月となりました。12月は楽しいイベントが盛りだくさんです。インフルエンザの予防接種などは早めに済ませ、冬将軍に備えましょう！
(丸山 恵理)

JAきたみらい概要

(平成28年11月17日現在)

- ・組合員数(正) 1,733人
- ・組合員数(准) 6,139人
- ・組合員戸数(正) 1,090戸
- ・貯金 102,598百万円
- ・貸出金 22,472百万円
- ・出資金 5,012百万円